



麻しん風しん第3期・第4期接種率向上の取り組み事例 - 2 平成20年度第3期・第4期麻しん風しん予防接種の取り組みについて

市立函館保健所健康づくり推進室健康増進課

<はじめに>

麻しんの発生予防には予防接種率の向上が重要であることから、函館市としては集団接種が効果的であると判断し、第3期については中学校を、第4期については保健所を会場に実施することとした。その結果、平成20年9月末現在の接種率は、第3期88.5%、第4期71.4%で、目標の95%には及ばなかったが、比較的高い接種率を確保することができたので、取り組みについて報告する。

<函館市の第3期、第4期 実施計画>

下記の実施計画に沿って、教育委員会、中学校校長会、高等学校長および函館市の予防接種事業についての情報や意見交換をする場である予防接種連絡会の委員へ説明を行い、理解・協力を要請した。

また、国立および私立中学校には、近隣市町村の生徒も通学していることから、相互に接種依頼文のある者については無料接種での対応とした。

	第3期	第4期
実施方法	中学校を会場とした集団接種 (市立28校、国立1校、私立3校)32校	保健所における集団接種
	保健所長が特に認める者については、委託医療機関での個別接種	
周知方法	個別通知、市広報紙、ポスター掲示等	
	個別通知後、学校毎にリーフレットを作成し、学校から保護者へ配布、接種勧奨を依頼	個別通知後、学校へ接種勧奨を依頼
実施時期	5月～8月	5月～8月
実施可能日 及び回数	月、火、水曜日のいずれも半日間 合計32回 (医師等は接種終了後30分待機)	毎週火曜日 16:30～18:30 16回 第1・3日曜日 9:00～11:00 8回 合計24回 (接種を受けた者は30分待機)
	接種後の副反応等で医療機関を受診することが考えられるため、金曜日は原則予防接種を実施しない。	
スタッフ体制	医 師：保健所医師2名、協力医4名 保健師：職員20名 看護師：職員1名、嘱託職員3名、臨時職員8名 事務職：職員5名	
安全・救急体制	第3期では、保護者署名及び予診票に未記入がある場合は接種しない。 (後日保健所で接種とする。) 第4期の問診は、女性は個室対応 応急治療措置として、血圧計、静脈路確保用品、輸液、エピネフリン、抗ヒスタミン剤、抗けいれん剤、副腎皮質ステロイド剤等の薬液、喉頭鏡、気管チューブ、蘇生バック等を準備する。 救急搬送が必要となる場合に備え、消防署との連携。 学校医へ、接種日程についてのお知らせ	

< 第3期における具体的な取り組み内容 >

学校を会場とした集団予防接種に対し、学校現場からは、生徒の安全性の確保に十分配慮するようにとの申し入れがあり、応急治療措置として救急処置物品の準備のほか、消防署および学校医へ予防接種日程の通知を行うなど、情報の共有を図った。

また、予防接種日の2～3週間前には、各校に出向き、保護者への接種勧奨リーフレットの配布依頼と、当日の流れや接種会場の確認・調整などを行い、学校側の精神的負担の解消に努めた。学校側の協力は、接種会場に生徒を誘導することと、接種後体調を崩した場合に保健室を利用させてもらうことのみとした。

接種当日の流れは、保健師および看護師による問診・体温測定(耳温計)のあと、医師による診察(問診票の確認、口腔内視診) 看護師による接種、保健師または事務職員による接種後の注意事項の説明と接種済証の交付のほか、予防接種後健康状況調査への依頼を行った。接種終了後は、医師1名、看護師2名、保健師1名が学校に待機(30分)、副反応出現時の対応に備えたが、重篤な副反応は認められなかった。

なお、職員は、学校規模に応じて配置した。

< 第4期における具体的な取り組み内容 >

第4期については、実施回数の24回を町別に振り分けて個別通知し、受診数が偏らないよう配慮するとともに、高校に対しては、4月と8月に接種勧奨の依頼を行った。

また、自家用車で片道1時間程かかる高校については、学校と協議の上、中学校で接種を行う日に、高校に近い地区センターを接種会場にして、時間差で実施した。

接種当日の流れは第3期とほぼ同じであるが、女子生徒への問診は個室対応とした。

第4期については、学校を会場とした集団接種ではなかったため接種率を危惧したが、比較的高い接種率を確保できた。

< 取り組み体制 >

予防接種を担当する母子保健担当は、予防接種業務のほか、乳幼児健診や赤ちゃん訪問事業などの母子保健事業全般を担いながらのMR第3期・第4期の集団接種であったため、担当だけでは事業を行うことは難しく、課全体で取り組むこととした。

また、MR第3期・第4期に関する基本的な知識や接種に関する学習会を開催し、従事する職員全員が一貫した対応ができるように準備を行った。

実施にあたっては、実施状況に応じた臨機応変な対応ができるように、スタッフ配置には必ず「フリーの者」を1～2名配置した。

< おわりに >

予防接種は、「原則、個別接種」となっていることから、集団接種に対しては、関係機関等から多くの意見・要望が出され、その対応に苦慮することもあったが、最終的には、「子どもたちを麻疹から守る」という目的のもと、集団接種を実施することができた。ご協力をいただいた全ての関係者に感謝申し上げます。

今後は、11月に、再度、未接種者に対する個別勧奨と教育委員会や各学校長への接種勧奨依頼を行うとともに、12月には保健所を会場に追加の予防接種を実施する予定である。

なお、第3期接種者を対象に実施した「予防接種後健康状況調査」には、1,002人の回答を得

ることができ、その結果、接種後何らかの体調の変化(副反応)を認めた者は71名(7.1%)で、その主な内訳としては、発熱2.4%、局所反応2.7%、発疹0.3%であったことを報告する。